

日常からつながる世界



		小栗 美香子 秋田県立秋田北鷹高等学校 教諭／家庭科	
教科	家庭（家庭基礎・フードデザイン）	対象	家庭基礎（50分×3回）：1年普通科170名、 1年緑地環境科35名、2年生物資源科24名、 フードデザイン（50分×3回）：2年普通科80名

I 実践の目的

生活がグローバル化する中、家庭科において地球市民としてどう生きるべきかを考えさせることは必須であると考えます。しかし、自分の授業においては単にグラフや数値を提示するに終わっており、生徒が“自分事”として考えていないという課題があった。そこで、現地の生活を知ること、教材研究を深めることができ、授業改善が図られるのではないかと考え、本研修に参加した。

授業実践は、教科において行うこととした。理由は、総合的学習の時間やLHRでの実践では、単独で終了する授業となりがちであると予測されたためである。習得状況を評価するためにも教科で実践すべきと考えた。また、教科においての実践は、同じ教科の教員で指導案を共有し、授業方法を協議しやすい。来年度以降も良い授業づくりを継続するために、教科のみでの実践とした。

II 授業の構成

時間	内容	公開授業	教科書との対応	
1	ガイダンス	—		
2	水から考える持続可能な食生活のあり方	○	家庭基礎 「家庭基礎21（実教出版）」	フードデザイン 「フードデザイン（実教出版）」
3	コーヒーから考える消費行動のあり方	○	1編 2章 食糧生産 5章 消費社会を生きる	1章 2節 食を取り巻く現状

III 授業の詳細

次に授業の略案を掲載する。評価については、関心・意欲・態度（A）、思考・判断・表現（B）、技能（C）知識・理解（D）とした。

● 1回目 ガイダンス

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	・教師海外研修へ参加したことを報告する。 ・開発途上国をテーマに授業を行うことを知らせる。		

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師海外研修での様子をスライドショーで見る。 ・ 研修の内容を知る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">考える：ホームステイ先へのお土産は何を持っていくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程 8 日目のホームステイで、ホストファミリーと一緒に日本料理を作りたい。自分だったら何を持っていくか、アイデアを出し合う。 ・ 実際に持って行ったものを確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">考える：現地でうどんを作ったことで、考えさせられたことは何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荷物の重量制限や賞味期限などについても考えさせる。 	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は水資源について考える授業を行うことを知らせる。 		プリント (A)

高等学校

◇生徒の感想から抜粋

「何か自分に出来ることを見つけてみたいと思った」「相手のことを考えるということはとても大切」「考えるって楽しい」「日本<ルワンダ (ものを大切にする気持ちやものの貴重さ)」「当たり前は当たり前じゃない」

月 日 曜日

世界の食を考える 年 組 番 氏名

- 1 ()について、どんなイメージを持っていますか？
- 2 現地で行ってみたいことや楽しみたいことは？
- 3 ホームステイ先のお土産は何にしみますか？
1 2 3
なぜ？
- 4 写真をみたりお話を聞いて考えたことは？
- 5 今日の学びを一言で！
- 6 もっと知りたいことはありますか？

使用プリント 1



提示資料 1 - 1



提示資料 1 - 2



提示資料 1 - 3

※提示資料は一部抜粋。

● 2回目 水から考える持続可能な食生活のあり方を考えよう<公開研究授業>

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の水の使用状況を振り返る。 ・ 水資源が少ない国の生活を考える。 		
展開 (40分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 実践：200mLの水で手を洗ってみよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践後、考えたことを発表する。 ・ 水資源の少ない国と日本の食生活との関連を考えさせる。 ・ 食糧自給率、バーチャルウォーター、食糧廃棄量の資料を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 考える：食品の購入、消費、廃棄について生活を振り返り、改善できることがないか考え、発表する（班で話し合い、全体で発表する）。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泡立っていないと汚れ落ちが悪いこと、現地では手で食事をする人が多いことも伝える。 ・ 手荒れなどに配慮して、最後は十分すすがせる。 	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賞味期限や消費期限について正しく理解しているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実生活でできることを中心に意見を出させる。 	プリント (B・D)

◇生徒の感想から抜粋

「いつもは気にしない量の水を、あ！もったいない！とっている自分がいた。日本は水も食べ物も捨てる量が多い。日本は外国より賞味期限の短い食べ物が多いと聞いたことがある。安全面はいいかもしれないが、間違った理解で無駄にしてはいけない。多くの国の事情を学ぶべきだと思う。」

「水が足りていない国はあんなに少ない量で手を洗っていることにとっても驚いた。出しっぱなしにしている人も多い。食べ物も状態を見ずに、ただ賞味期限の数字だけ見て捨てることも多かったの、正しい判断でゴミを少なくしていきたい。」

「食べ物の無駄が多いと思ったが、あれほどまでとは思わなかった。豊かな国だからこそ1つ1つのものを大切にするべきだと思う。食べ物のこともたくさん勉強して、なるべく廃棄にしないようにしたい。水を節約するという小さなことももしかしたら他国の人たちの力になれるのかもしれないと考えた。」



家庭基礎 「水から考える持続可能な食生活のあり方」 月 日 曜日
年 組 番 氏名

1 手を洗うのに使う水はどのくらいか？

生活活動	使用量ののりず (リットル)
手洗い	
洗顔	1.2
歯磨き	0.2
シャワー(10分)	12.0
お風呂	20.0
食器洗い(1分間)	1.2
洗濯(小型4.2kg)	11.6
トイレ(水)	8
トイレ(水)	6
飲料水	1.8
1日の平均使用量	28.9

2 TRY! ～見て、実践してみてください～

3 世界中のすべての人が安心して食べられるようになるために、私たちに出来ることは何だろうか？

ANSWER

4 本日の授業で考えたこと・もっと知りたいと考えたことなど

使用プリント 2

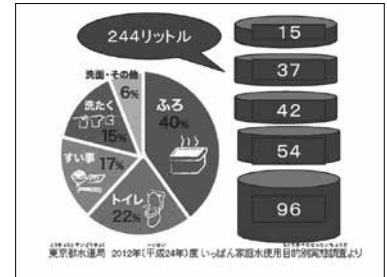
平成24年度北秋田市統計による

2 上水道の給水状況

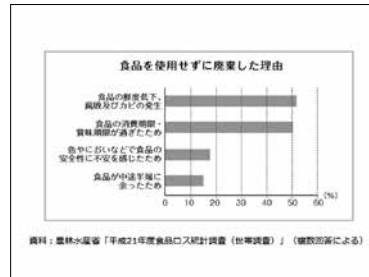
区分	給水人口 (人)	給水率 (%)	給水設備 (台)	給水人口 (人)	給水率 (%)	給水設備 (台)
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651
管内	11,441	99.8	1,651	11,441	99.8	1,651

312リットル

提示資料 2 - 1



提示資料 2 - 2



提示資料 2 - 3



提示資料 2 - 4

日本の食糧廃棄量

2012年度 農林水産省食品ロス統計調査など

一般家庭から 1000万トン

食品関連事業者から 800万トン

途上国での1000万トンが 5000万人分の食糧

世界の食糧 援助総量 550万トン

提示資料 2 - 5

※提示資料は一部抜粋。

◆研究協議会より

- ・導入部の学習活動は、途上国の大変さを実感するうえでは大変効果的でインパクトが強かった。
- ・生徒の協議結果のほとんどが「量」に関することであったが、1班だけ「期限」に言及した班があった。この点を共有・強調することで、「持続可能な食生活」について新たな「気づき」を多くの生徒にもたらすことができたと感じた。
- ・学習プリントの作り方(構成等)が非常にわかりやすく、効果的であった。
- ・教員自身の研修(ルワンダ訪問)・体験が生かされた授業内容だった。
- ・モニターの使用等、情報機器も効果的に使用されていた。
- ・今回の授業は、自身の研修の成果・体験を踏まえたものであり、十分な授業準備もなされていた。導入部だけでなく、資料・機器の活用も含めて提案性が豊富な意欲的な授業内容であり、それゆえに授業後の議論も活発になったと感じている。
- ・伝えたいことが多くあったようで、提示資料の精選が必要だと感じた。
- ・黒板への授業目標の提示が体言で止める形だったが、指導案通り「～を考えよう」が適切。
- ・導入部の学習活動(水)が、授業目標(持続可能な食生活)につながったかどうかは疑問である。授業目標の達成のためなら、もっと別の導入方法があったのではないか。

- ・本授業においては、授業目標と「授業後の姿」の整合性が一番の課題として挙げられる。導入での「水の大切さ」「途上国の大変さ」のインパクトが強すぎて、「持続可能な食生活」という授業目標がかすんだ印象がある。生徒の授業後の感想でも「水、途上国」に焦点があたったものが少なくないのではないと思われる。どのような授業であっても、「ねらい」を達成するために、どういう「手立て」があり、それをどう「評価」するか、常に考えなければならない点である。

● 3回目 パッケージを読み取ろう<公開研究授業>

時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	・ルワンダは良質のコーヒーの産地でもあることを知る。		
展開 (40分)	実践：A、B、Cの3種類のコーヒーを飲み比べ、値段が一番高いものを当ててみよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践後、感想を発表する。 ・答え合わせをして、パッケージを見比べる。一つはインスタントコーヒーだが、2つはドリップコーヒーである。ドリップコーヒーのうち一つはフェアトレードマークがついている。 ・フェアトレードマークの意味や価格の理由、商品などについて知る。 	・味覚に個人差があることを伝える。	
	知る：たくさんの商品のパッケージを見てみよう。(フェアトレードやレインフォレストアライアンスマークがついた食品のパッケージをみる)		
	・レインフォレストアライアンスマークについて知る。		
まとめ (5分)	・商品選択をする際、単に価格だけで判断するのではなく、生産や流通、パッケージを見てどのような商品か把握したうえで選ぶことも大切であることを確認する。	・選択するのは、各自であるが、選択に責任を持つことが大事であることを伝える。	プリント (B・D)

◇生徒の感想から抜粋

「パッケージについている表示が何を意味するか理解した上で商品を購入することが大切だと思った。フェアトレードなどが増えて格差が減っていけばいい。」

「日本では、赤道付近のあらゆる国々から輸入しておいしく飲んでいるけど、その背景には農家や地元の輸出会社がいなければ成り立たないと感じた。これからはパッケージをみてフェアトレードの商品を買っていけばと思う。」



家庭基礎 月 日 曜日 年 組 番 氏名

目標：パッケージを見て買おう～グローバル社会を考えた消費行動について考えよう～

1 体験！ 違いがわかる？

予想	なぜ？味や香りの記録もしよう！	答え
A		
B		
C		

2 あなたが支払ったコーヒー代はどこへ行く？

予想 実際

コーヒー代のはほとんどは () の収入となる。

コーヒー代のはほとんどは () の収入となる。

なぜ？

なぜ？

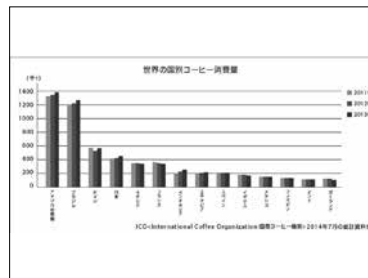
今日のキーワード

1 ()

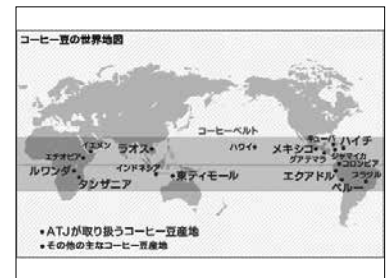
2 ()

グローバル社会を生きたる消費者として大切なことを書こう！

使用プリント 3



提示資料 3 - 1



提示資料 3 - 2
Alter Trade Japan, Inc. より



提示資料 3 - 3
映画「おいしいコーヒーの真実」より



提示資料 3 - 4



提示資料 3 - 5

※提示資料は一部抜粋。

◆研究協議会より

- ・ コーヒーを味わい、違いを考えている授業は家庭科ならではのとても良い。
- ・ 他教科でもフェアトレードを扱うが、視点が家庭科としての視点で大変勉強になった。現代社会などではフェアトレードとは何か知識をつけることが重視されているが、家庭科では生活の中でどのように行動するべきか実践的に考えさせているのが印象的であった。
- ・ 試飲からパッケージについて考えさせていたが、自分のこととしてとらえ自主的に考える生徒が多かった。
- ・ 生徒は指示通りに学習を進めており、意欲的・積極的であった。
- ・ モニターの使用等、情報機器も効果的に使用されていた。
- ・ 「自分で考える」「意見を発表する」という学習活動が非常によくできていた。

IV 実践の成果

今回の実践での成果は多数あるが、ここでは、学習者の学び、授業案の共有の2つについて述べる。

(1) 学習者の学び

今回の研修を生かした授業を秋田大学教育文化学科「家庭経営学」において学生を対象に実践した。この実践により、学習者の考えや学びの変化の様子の可視化を試みた。振り返り用紙の自由記述について、秋田大学教育文化学部学校教育課程 准教授 佐々木 信子氏の指導の下、KH Coderにより、「前時の説明を受けて感じたこと」「授業中の出来事」「授業を終えて感じたこと・考えたこと」3回にわたり分析した。

授業前のガイダンスを受けて感じたことを分析したものが図1である。「聞ける」の語を中心とする記述のまとまりが見て取れる。「高校の授業を思い出しながら吸収できることをしたいと思っていた。」という記述が多く、「高校」「授業」「思う」の強い共起関係が見て取れる。

授業中に考えたことについての記述をまとめたものが図2である。「水」と「知る」という語を中心とする記述のまとまりが見て取れる。学生が、授業中に感じたこととして、「今まで以上に水が貴重なものであると感じた。」「諸外国の水不足に対し、日本は無関係ではないことを知った。」などの記述が多く見られた。「水」が中心的な役割を果たしていると思われる。また、「思う」「考える」という語を中心とする記述のまとまりである。演習で体験的に学習したことから新たに「考え」「思った」ことが見て取れる。体験や新たに知ったことを通して、自分なりに考えたことや思ったことを記述していることが窺える。そのため、「水」と「思う」、「コーヒー」と「知る」というキーワードが強く共起している。体験を通して実感していたことが推察できる。授業後の記述についてまとめたものが、図3である。「先生」「生活」「感じる」と

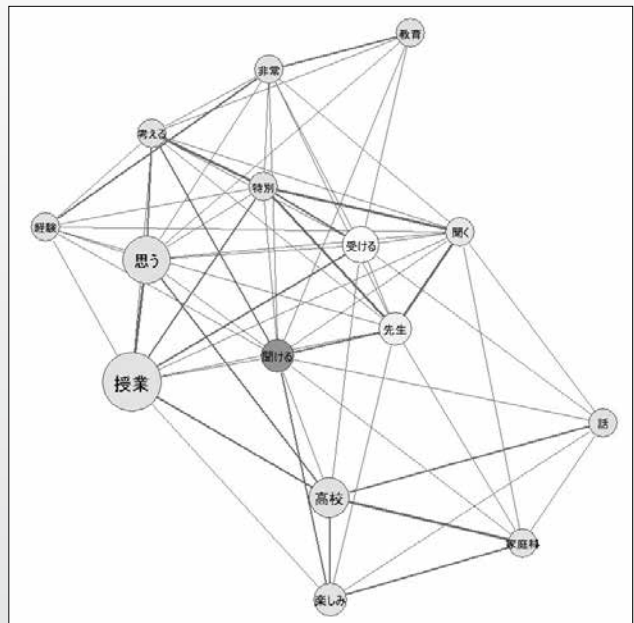


図1 「前時の説明を受けて感じたこと」についての自由記述の共起ネットワーク

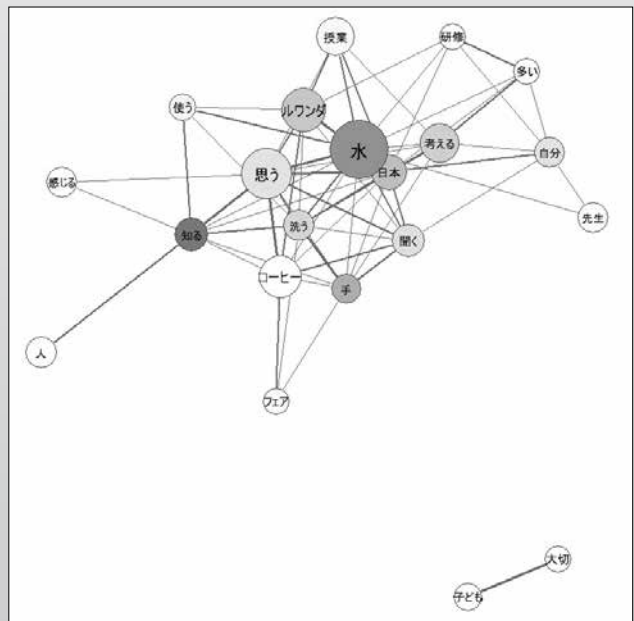


図2 「授業中の出来事」についてのナラティブの共起ネットワーク

いう語を中心とする記述のまとまりが見て取れる。「先生のように実践的に伝えるというのは重要である」、「生活の違いをリアルに感じた。」など、他国（開発途上国）の「生活」について、実際に「行った」、「先生」の話から多くのことを「感じた」学生が多かった。つながりが強く共起しているのは、「水」、「自分」、「思う」、「考える」である。水を使った体験を通して、自ら考えたことを述べる学生が多かったため共起関係が強く出たと推測される。「自分」が「人」のことを「考える」ことを始め、特に「水」について「考える」「思う」時間を過ごした学生の様子が窺える感想がみられた。

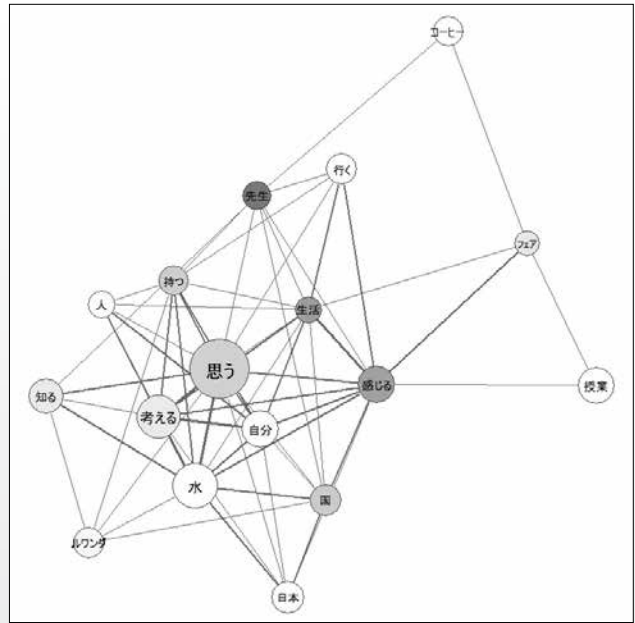


図3 「授業を終えて感じたこと・考えたこと」
についての自由記述の共起ネットワーク

上記図1～3から演習を通して学生の

考えが深まっていく様子が見て取れた。ねらいを明確にして授業を行い、知識だけでなく本物の体験を伝えたことで、学生は本質的なものを感じ取り、自分の生活に置き換える深い学びができていたと考えられる。また、授業を通して、他人事として考えていたことを自分事として捉える学生が多かった。自分の生活を振り返り、生活と密着させて考えることができていたことも大きな成果といえる。

(2) 授業案の共有

今回公開授業で他教科の教員にも授業を参観いただいたことからたくさんの視点での助言があった。例えばコーヒーの授業については、「一番安価なコーヒーのみ試飲させて、値段を当てさせ、価格構造を考えさせてはどうか」などより良い授業づくりへのアドバイスをたくさんいただいた。

さらに、実践を秋田県教育研究協議会家庭部会で発表した。これをきっかけに秋田大学、能代西高で外部講師として上記の授業を実践することができている。体験的な学びを通し生活を振り返り地球規模で生活を考える学生や生徒の姿がたくさんあった。いかに、国際理解教育が家庭科教育に必要とされているか実感した。また、他校の家庭科教員からは「お土産を考える授業は、食文化の違いを考えさせるときに実践したい」「手を洗う」演習は是非防災教育の一環として取り入れたい」などたくさんの応用例を教えていただいた。多くの教員のアドバイスを元に授業のレベルアップを図りたい。

V 課題

授業実践の課題としては、伝えるべきことの精選、プリントの構成、授業目標や資料の提示方法など多くの課題があげられる。公開授業では多くの助言をいただいた。今後の実践では改善したい。

大きな課題としては、ジェノサイドについて授業では扱っていないことがある。教科教育での実践は、困難があるかと思われる。しかし、社会生活や生き方を考えるうえで、非常に重要な内容だと考える。

また、生徒の現状に目を向けると人間関係に悩みを持つ生徒が多くなっているように思われる。実践報告会では、他教員のジェノサイドを扱った授業実践例を学ぶことができた。総合的な学習やLHRで実践し、生徒自身の生き方を考えるきっかけづくりをしたい。

さらに、本研修では平和教育の重要性も学んだ。これは、生徒指導や生徒と接するうえで基本となる事柄だと考える。平和教育の在り方や実践についても学びを深めていきたい。

生徒が深く考え、可能性を広める実践を、今後も継続していきたい。

関連する学習指導要領の内容と文言

家庭基礎 目標

人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

(2) 生活の自立及び消費と環境

自立した生活を営むために必要な衣食住，消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，環境に配慮したライフスタイルについて考えさせるとともに，主体的に生活を設計することができるようにする。

エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ，適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに，生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。

(ア) 消費者問題と消費者の権利

グローバル化，情報化などの社会変化や，それに伴う販売や流通の多様化，消費者と事業者の情報量の格差など，消費者問題発生の社会的背景について考えさせる。その際，「消費者基本法」を基に消費者の権利とその実現の在り方，消費者保護に関する施策について理解させる。さらに，一人一人が権利の主体としての意識をもち，自ら進んでその消費生活に必要な情報を収集し，適切な意思決定や消費行動によって意見を表明し，行動することなどが消費者の責任であり，権利を行使することにつながることを認識させる。

指導に当たっては，契約や消費者信用，多重債務問題など，現代社会における課題を中心に取り上げ，消費者問題が生じる背景や守られるべき消費者の権利について理解させる。

オ ライフスタイルと環境

生活と環境とのかかわりについて理解させ、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な環境問題が生じていることに気付かせ、消費生活と環境とのかかわりについて理解させる。また、環境保全のためには、消費者一人一人の生活意識やライフスタイルを改めることが必要であることを認識させる。指導に当たっては、具体的な事例を通して、環境負荷の少ない生活について考えさせ、自らの生活意識やライフスタイルを見直すことができるようにする。

(ア) 消費生活と環境とのかかわり

経済発展や便利で快適な生活を優先してきた結果、環境問題や資源・エネルギー問題が生じていることを理解させ、各自の消費行動と家族や地域社会における消費総量の問題との関連について、具体的な事例を通して考えさせる。また、自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践できるようにする。

(イ) 環境負荷の少ない生活への取組

身近な生活の中から、地球温暖化など環境問題に配慮する製品の選択、購入、使用方法や生活の仕方などを点検させ、どこに問題があるのか、どう改めたらよいのかなど、環境負荷の少ない生活の工夫について考えさせる。

また、個人や家庭だけではなく、地域や企業、行政、国際的な取組など社会全体が一体となった取組や、社会経済システムの見直しなどが必要であり、現在、環境配慮型製品の開発やグリーン購入の推進など様々な取組が進められていることを理解させ、実践への意欲をもたせるようにする。さらに、安全・安心を確保し環境負荷を低減するために、国際標準化機構（ISO）による品質管理や環境管理などに関するマネジメントシステムについても理解させ、企業の取組などを意識して購入できるようにする。

フードデザイン 目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

(1) 健康と食生活

ア 食を取り巻く現状

我が国の健康や栄養状態の現状については、例えば、国民健康・栄養調査などを基に、朝食の欠食、栄養の偏り、食習慣の乱れ、脂質の過剰摂取、野菜の摂取不足などの実態や生活習慣病が増加していることなどを把握できるようにする。また、肥満と同時に、特に思春期の女子に、過度の痩身志向がみられることにも気付かせ、健康な食生活についての課題を考えることができるようにする。さらに、我が国の食生活が、ライフスタイルの多様化や食品産業の発展などにより、外部化し社会化していることや、食料事情について、食料自給率や食のグローバル化などとも関連させて扱い、食の安全や地球環境に配慮した食の在り方を考えさせる。

イ 食事の意義と役割

食事は基本的には栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図るものであるが、同時に、嗜好を満たし人間関係の円滑化など精神的な役割や文化的な役割を果たしていることを理解させる。その際、食事のおいしさには、素材の工夫に加えて食事をする人の心身の状態などが複雑にかかわっていることを理解させる。また、望ましい食習慣形成に果たす日常の食生活の重要性に気付かせるとともに、地域の伝統食や郷土食などの食文化とも関連付けて、食事の意義と役割について考えさせる。

●出典・参考図書

- 1 映画「おいしいコーヒーの真実」
- 2 教材「おいしいチョコレートの真実」特定非営利法人 ACE
- 3 教材「世界と日本の水事情－自ら広がる学び・アクティビティ20」開発教育協会 DEAR
- 4 世界食糧デー <http://www.worldfoodday-japan.net/> (2015. 10. 11)
- 5 後藤健二 著『ルワンダの祈り－内戦を生き延びた家族の物語－』（株式会社 汐文社 発行）2008. 12
- 6 ロメオ・ダレール著，金田 耕一訳『なぜ、世界はルワンダを救えなかったかのカー PKO 司令官の手記』（株式会社風行社発行）2012. 8. 25
- 7 ジャン・ハッツフェルド著，服部 欧右訳『隣人が殺人者になるとき 和解への道 ルワンダ・ジェノサイドの証言』（株式会社鴨川出版発行）2015. 4. 30
- 8 ジャン・ハッツフェルド著，ルワンダの学校を支援する会（服部 欧右）訳『隣人が殺人者になるとき ルワンダ・ジェノサイドの生存者たちの証言』（株式会社鴨川出版発行）2014. 2. 10
- 9 ジャン・ハッツフェルド著，西京高校インターアクトクラブ（服部 欧右）訳『隣人が殺人者になるとき 加害者編 ルワンダ・ジェノサイドの生存者たちの証言』（株式会社鴨川出版発行）2014. 2. 10
- 10 日本国際理解教育学会編著『国際理解教育ハンドブッカーグローバル・シチズンシップを育む－』（株式会社明石書店発行）2015. 6. 13
- 11 佐々木信子・瀬尾知子・小松国子・菊地教子・小栗美香子「家庭科教育におけるアクティブ・ラーニングの授業評価－KH Coder による質的分析の検討－」（秋田大学研究紀要，第38号）2015
- 12 石森 広美著，メディア総合研究所『生徒の生き方が変わるグローバル教育の実践』（株式会社メディア総合研究所）2015. 8. 24